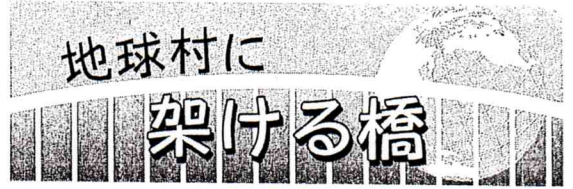


おおさか支局
〒530-8251 (住所不要)
毎日新聞社会部おおさか支局
TEL06・6346・8443
FAX06・6346・8444

メールはat-osaka@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げてほしいテーマなど、お寄せください。
【購読問い合わせ】
フリーダイヤル0120-468012

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120の4 ☎0883・42・2271 HP=http://www.tico.or.jp/

ノンフィクション作家



干ばつに強いプロジェクト

高賛侑

「トウモロコシが立ち枯れし食べ物にならなくなったため、村人は配給を待ったり草を摘んで食べるだけでした。それでTICOでは村全体の能力強化を始めます。医療は目に見えやすいけど、もっと突っ込んで、村人身が生活を支えられるようにしたかったから」

高賛侑は、徳島生まれの彼は、外科医になった後、89年に海外青年協力隊に入りアフリカ・マラウイに赴いた。国立病院には入院患者だけで900人いたが、医師は5人だけ。レントゲン等の設備も不足し、患者の体に触って手術すべきかどうか判断しなければならなかった。2年後、日本に戻り最新設備の整った病院で勤務したが、ある悩みが頭をもたげてきた。「アフリカでは100円、200円あれば治る病気で治療できなかったのに、日本では一人に500万、1000万円かけることもあります。そのギャップが納得できなかった」

岡山に、災害や紛争発生時に緊急支援活動を行うNGO「AMDA」(アジア医師連絡協議会)がある。専任になり、レバノン、ルワンダなどで生死の境にいる人々を治療した。最後に訪れたのがザンビアだった。93年、「徳島で国際協力を考える会」を設立した。日本の一地方で世界を考え、各々ができる国際協力を実践しよう。そして97年からザンビアの首都ルサカ市で本格的な活動を開始した(02年に「TICO」と改称)。「ザンビアでは30%

「命を守るため村を変える」

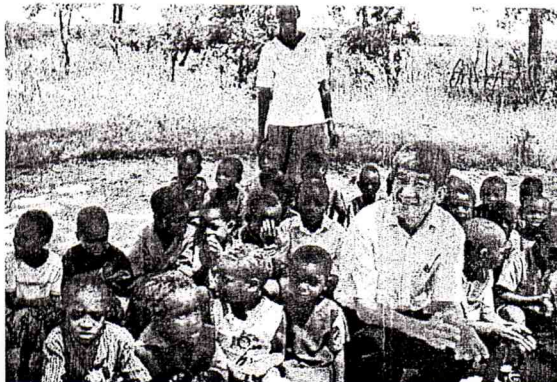
「トウモロコシが立ち枯れし食べ物にならなくなったため、村人は配給を待ったり草を摘んで食べるだけでした。それでTICOでは村全体の能力強化を始めます。医療は目に見えやすいけど、もっと突っ込んで、村人身が生活を支えられるようにしたかったから」

「子どもにも成長障害が、悩んだ末、まず子どもあり、18%の子が5歳の栄養改善から始めよ。すでに死ぬ状態でしょう」と思い、貧民居住地区で「コミュニティセンター」を作りました。死亡原因の半分は、区で「コミュニティセンター」を作りました。栄養失調。それにHIVと肺炎、マラリア。1日1食、平均寿命が30歳という地域で

「トウモロコシが立ち枯れし食べ物にならなくなったため、村人は配給を待ったり草を摘んで食べるだけでした。それでTICOでは村全体の能力強化を始めます。医療は目に見えやすいけど、もっと突っ込んで、村人身が生活を支えられるようにしたかったから」

「子どもにも成長障害が、悩んだ末、まず子どもあり、18%の子が5歳の栄養改善から始めよ。すでに死ぬ状態でしょう」と思い、貧民居住地区で「コミュニティセンター」を作りました。死亡原因の半分は、区で「コミュニティセンター」を作りました。栄養失調。それにHIVと肺炎、マラリア。1日1食、平均寿命が30歳という地域で

TICO(ティコ)



07~09年に支援したマサカコミュニティスクールの子どもたちと吉田修さん

「トウモロコシが立ち枯れし食べ物にならなくなったため、村人は配給を待ったり草を摘んで食べるだけでした。それでTICOでは村全体の能力強化を始めます。医療は目に見えやすいけど、もっと突っ込んで、村人身が生活を支えられるようにしたかったから」

「子どもにも成長障害が、悩んだ末、まず子どもあり、18%の子が5歳の栄養改善から始めよ。すでに死ぬ状態でしょう」と思い、貧民居住地区で「コミュニティセンター」を作りました。死亡原因の半分は、区で「コミュニティセンター」を作りました。栄養失調。それにHIVと肺炎、マラリア。1日1食、平均寿命が30歳という地域で